



アクサ生命

経営者200人
全国の働く人15,000人に聞いた

2024年版

中小企業と 健康経営の実態



健康経営アクサ式

クローズアップされる「健康経営」

日本では、少子高齢化に伴う労働人口の減少が進んでいます。

新型コロナ禍から経済活動も再開し、

中小企業をはじめとした多くの企業が働き手の確保に迫られるなか、

生産性の向上と人的資本の活用が急務となっています。



そのなかでクローズアップされているのが

健康を経営的視点から考え、戦略的に実践する「健康経営[※]」。

日本の経済を支えている中小企業が健康経営に取り組み、

従業員のやりがいや活力、組織の生産性を向上することは、

企業の持続可能な成長や発展にも繋がり、

地方創生への貢献も期待されています。



アクサ生命は、生命保険会社として健康経営にいち早く注目し、

独自の取り組みを通じて、

健康経営に取り組む企業のサポートを推進してきました。



今回実施した調査では、

経営者200人と、全国の働く人15,000人それぞれの視点から、

従業員の夢や生きがいといったウェルビーイングや、

企業の持続的な成長に貢献する「健康経営」の実態をまとめています。

社員一人ひとりがやりがいをもって働ける環境をつくり、

会社全体も元気に変えていくために。アクサ生命がお手伝いします。



アクサ生命

経営者が考える経営課題とその取組状況

企業規模や「健康経営」の認知や実施に関わらず、経営者が重視する要素は「ヒト」がトップに

人財が大切であることは、多くの経営者に共通した想いであり、特に「健康経営」を認知・実施している企業の経営者において、その想いが浸透していることが見られます。

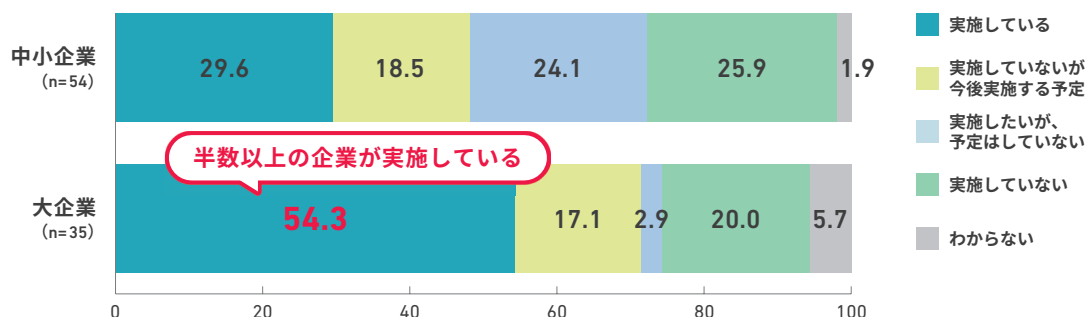
会社経営で重視する要素

		ヒト	モノ	カネ	情報	その他	特にない・わからない
企業規模別	中小企業 (n=150)	62.7	4.0	14.0	8.7	0.0	10.7
	大企業 (n=50)	78.0	4.0	8.0	2.0	0.0	8.0
「健康経営」について	認知層 ※実施含む (n=89)	84.3	2.2	7.9	3.4	0.0	2.2
	非認知層 (n=111)	52.3	5.4	16.2	9.9	0.0	16.2
	実施している (n=35)	94.3	0.0	2.9	2.9	0.0	0.0
	実施していない (n=35)	71.4	5.7	14.3	2.9	0.0	5.7

人財重視の一方「健康経営」を実施している中小企業は未だ限定的

「健康経営」の認知層において、大企業の半数以上が実施している一方、中小企業は約30%にとどまっている。しかしながら、40%以上の中小企業は実施の予定や希望があることがわかり、「健康経営」への関心の高さがうかがえます。

会社で「健康経営」を実施しているか



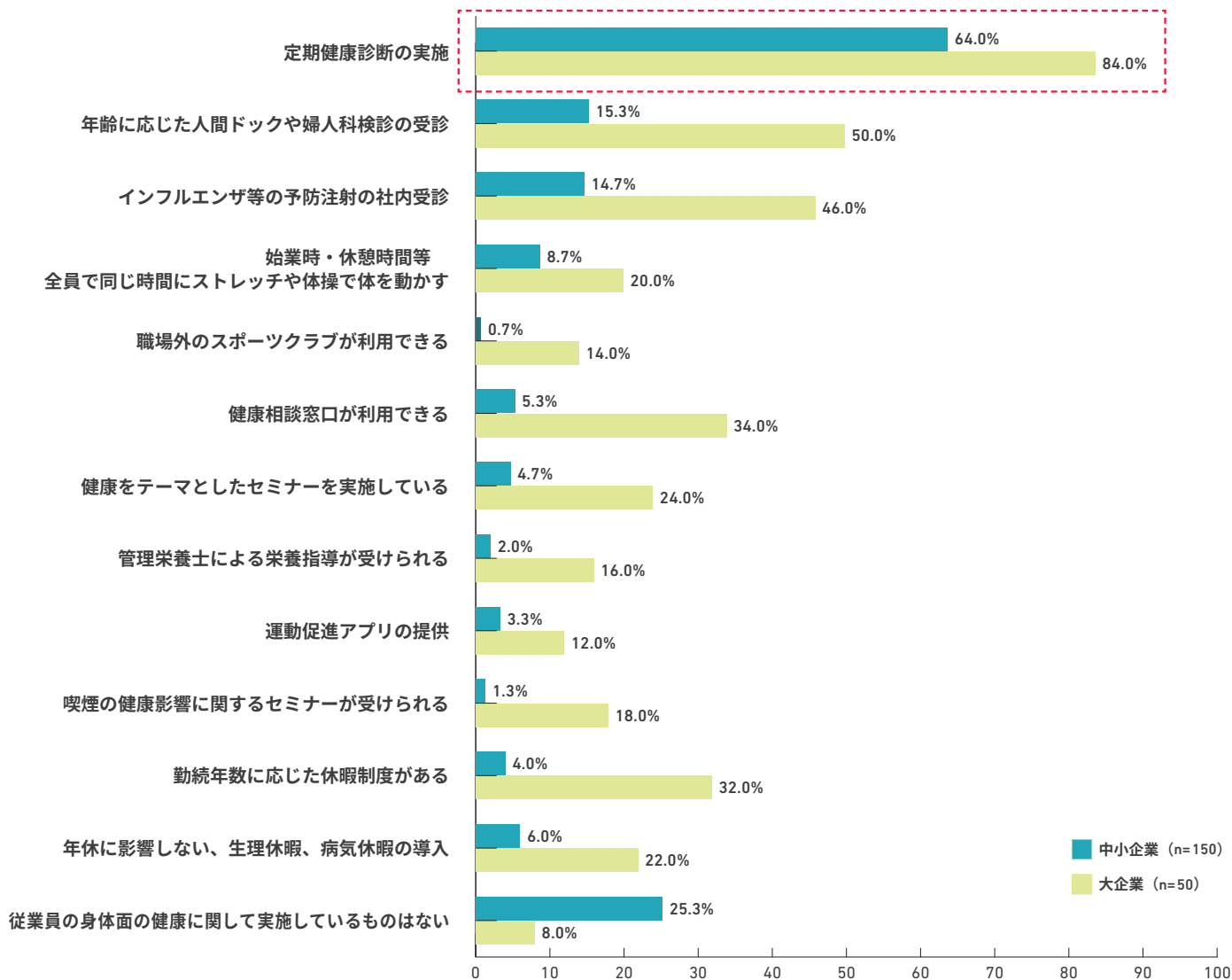
「健康経営」とは企業が従業員の健康を経営的視点から考え、戦略的に実践することを意味します。「人という資源を資本化し、企業が成長することで、社会の発展に寄与すること」が、これからの企業経営にとって、ますます重要になっていくものと考えられます。

「健康経営」の認知と取り組み状況

従業員の身体面の健康面ケアで半数を超えるのは健康診断の実施のみ

大企業では、健康診断以外にも多彩な方法が行われている一方、中小企業では限定的なサポートに留まっているのが現状です。

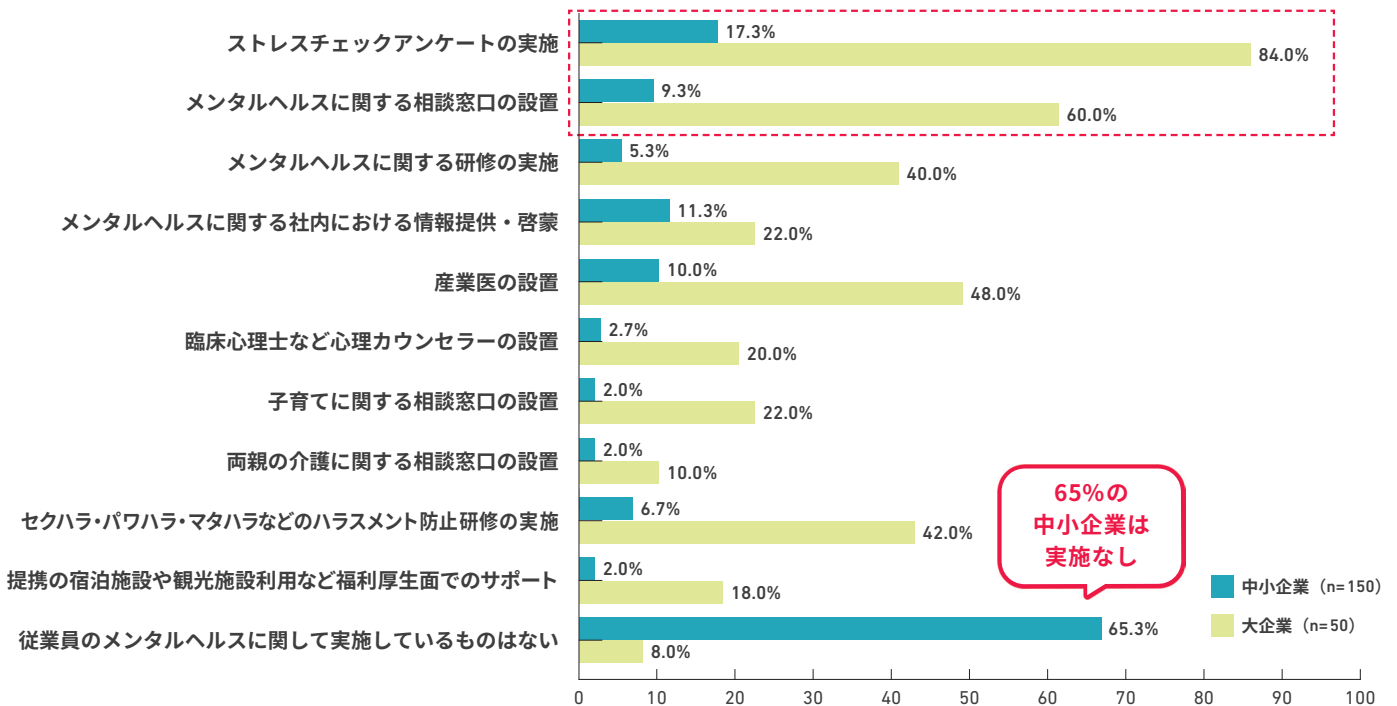
従業員の身体面の健康面ケアで行っているもの（中小企業・大企業）



中小企業と比較して大企業はメンタルヘルス対策の体制が整っている

大企業ではメンタルヘルスカが進んでいる一方、ストレスチェックが努力義務の事業所が多い中小企業では、約60%が「実施しているものはない」と回答。そのため、中小企業の回答は、全体的に10%以下という結果になっています。

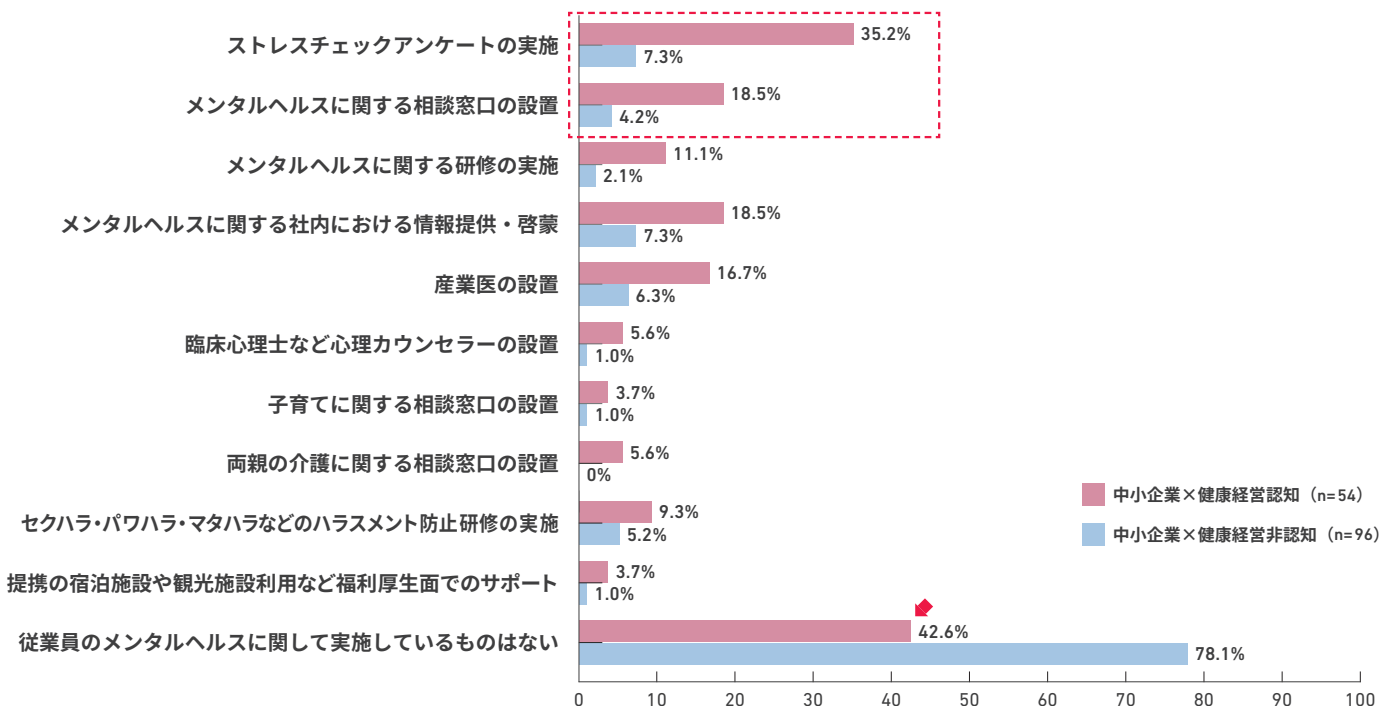
従業員のメンタルヘルス面のケアで行っているもの（中小企業・大企業）



「健康経営」認知層の中小企業はメンタルヘルスカの実施率が高い

メンタルヘルスカの実施について、「健康経営」を認知している企業は、していない企業と比較してすべての項目で割合が高くなっています。しかしながら、何も実施していない企業も40%以上あり、対応に苦慮していることが見受けられます。

中小企業の従業員にメンタルヘルス面のケアで行っているもの（認知企業・非認知企業）

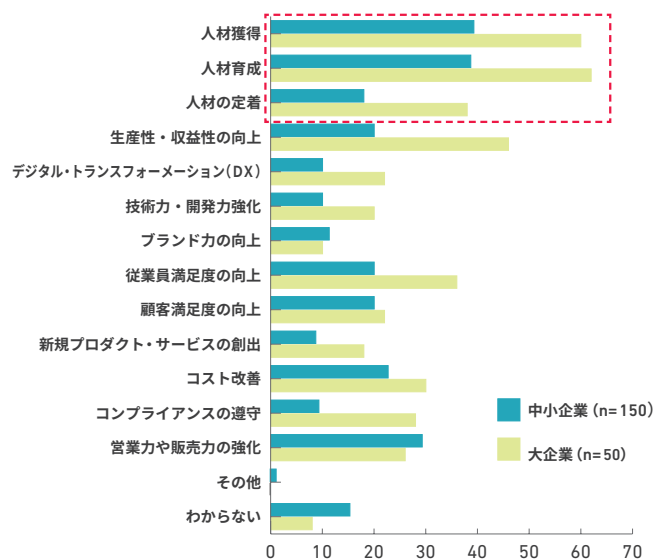


改善すべき経営課題

企業規模を問わず人財に関する課題の改善意識は高い

企業が抱える経営課題の中でも、人材獲得や人材育成など人財関連の課題は、企業規模に関わらず最重要事項とみなされています。

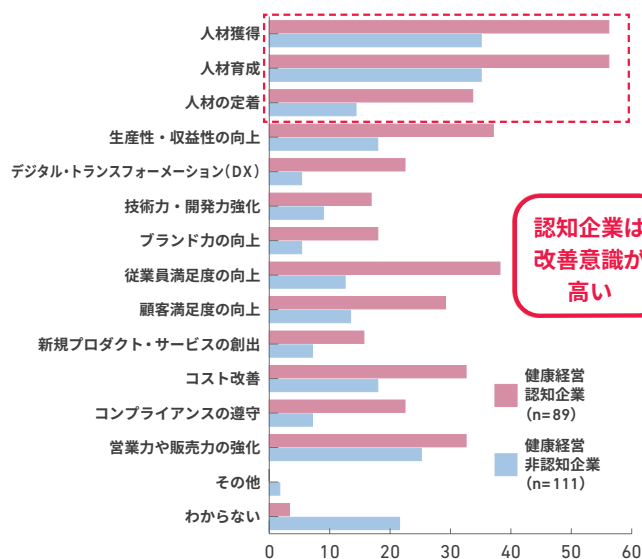
改善すべき経営課題（中小企業・大企業）



「健康経営」を認知する企業は、認知しない企業よりも課題の改善意識が高い

「健康経営」を認知している企業は、すべての項目で、非認知企業よりも課題の改善意識が強く、過半数の企業が人財関連の課題への取り組みを重視しています。

改善すべき経営課題（健康経営認知・非認知）

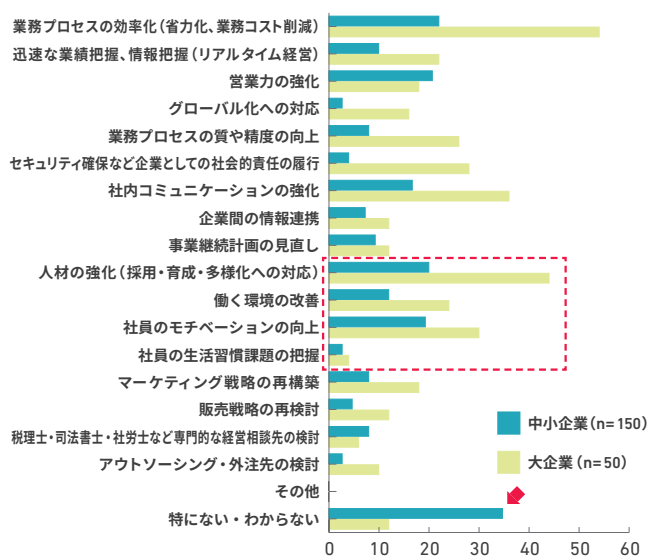


認知企業は改善意識が高い

人財に関する課題取組が遅れる傾向にある中小企業

中小企業では具体的に実施することが「特になし・わからない」の割合が一番高く、行うべき明確な方針を持っていない企業が多いと推測。人財に関する経営課題への取り組みも、大企業より遅れています。

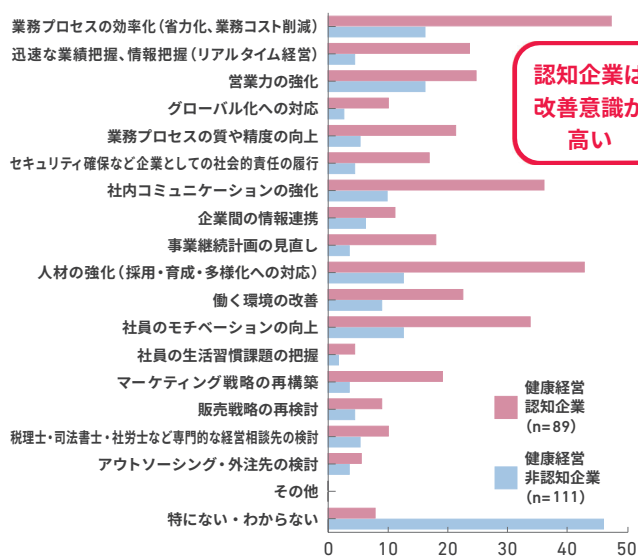
経営課題解決のためにやっていること（中小企業・大企業）



「健康経営」を認知している企業は経営課題への取り組みが積極的

「健康経営」を認知している企業は、従業員の働き方やウェルビーイングに関する経営課題への取り組みが、積極的であることがわかります。

経営課題解決のためにやっていること（健康経営認知企業・非認知企業）



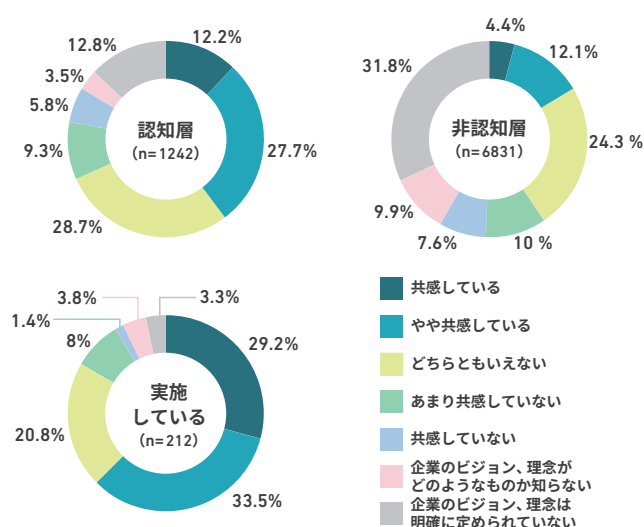
認知企業は改善意識が高い

「健康経営」を実施している中小企業のウェルビーイング

ビジョン・理念の共感度は高い

「健康経営」実施層では、約6割がビジョン・理念に「共感する」「やや共感する」としており、認知層でも約4割に達しています。

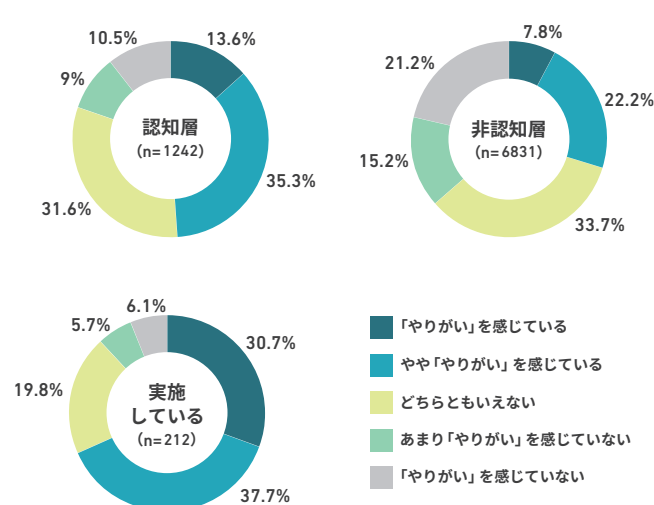
企業のビジョン・理念の共感度



やりがいを感じる従業員が多い

「やりがいを感じている」、「やや感じている」従業員の比率は、実施している企業で約7割にのびります。

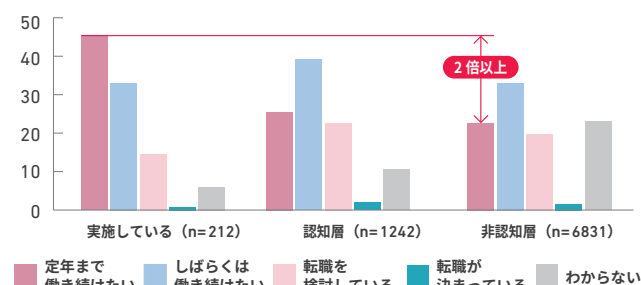
仕事のやりがい



定年まで働きたいと考える人が多い

定年まで働き続けたいと考える従業員は、「健康経営」非認知層の2倍以上になっています。

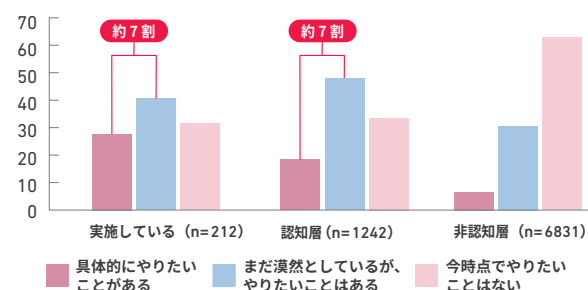
継続就業意向



具体的な夢や希望を持った従業員が多い

「健康経営」実施・認知層では、将来の夢や目標について、「具体的にやりたいことがある」、「まだ漠然としているがやりたいことはある」と答えた従業員が過半数を超えています。

将来の夢や目標



将来の夢や目標があり、前向きな人生観を持つことは、仕事も前向きに捉え、仕事のやりがいにもつながります。「健康経営」の一環として、従業員が将来の夢や目標を見つめ直し、仕事もプライベートも満足度が高い「ウェルビーイング」の実現に自信を持てる機会をつくることも重要です。

人生で大切なこと・金融資産について

人生において最も大切なのはお金の心配をしないこと

企業規模や「健康経営」の認知に関わらず、従業員は人生において大切なこととして、「お金の心配をしないで生活できること」「健康の心配をしないで生活できること」「家族」を上位3項目として回答しています。

人生において大切なこと

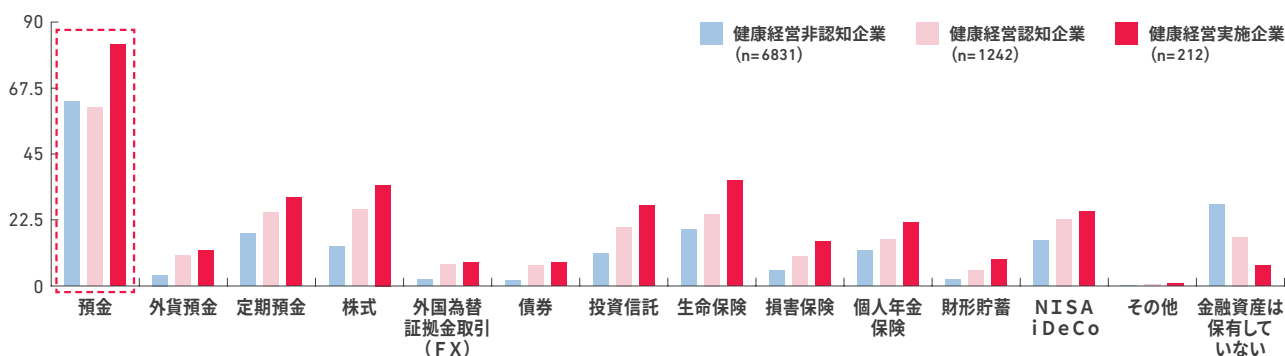
	企業規模別		「健康経営」に関する種別	
	中小企業 (n=8073)	大企業 (n=7129)	認知層※実施含む (n=3194)	非認知層 (n=12008)
将来よりも今を重視したい	6.1	7.1	8.6	6.0
人とのつながりを大切にしたい	22.1	22.8	26.1	21.4
いつまでも社会とかかわっていたい	9.7	11.6	16.3	9.1
家族や親しい友人と過ごす時間が好き	24.2	27.2	25.7	25.6
数は少なくても、関係の深い友人がいることが大切だと思う	23.9	23.9	23.8	23.9
家族は何よりも重要な存在だと思う	26.4	30.8	28.0	28.6
お金の心配をしないで生活できること	46.6	46.6	39.6	48.5
健康の心配をしないで生活できること	34.9	37.6	35.0	36.5
今の仕事や生活を変えたくない	10.5	10.1	11.8	9.9
自分の人生は自分でコントロールしたい	22.6	24.7	26.4	22.8
人生には目標が必要だと思う	15.0	17.2	21.8	14.5
いつまでも成長していきたい	13.9	15.4	20.8	13.0
将来計画は早いうちからきちんと立てたい	13.2	15.3	17.5	13.3
自分の個性を発揮していきたい	11.7	13.4	17.9	11.0
いつも新しいことにチャレンジしていきたい	8.8	11.2	15.8	8.4
仕事や生活に変化を求めるほうである	5.6	6.9	11.3	4.9
普通の人よりも豊かな生活がしたい	15.4	18.3	17.8	16.5
業務内容より給与面を重視したい	10.1	11.8	12.1	10.6
あてはまるものはない	19.1	15.0	10.6	18.9

どの層でも
お金の心配を
しないことが
トップ

中小企業の従業員の多くは、お金の心配をしたくないと思いながらも、預金以外の資産を持っていない

中小企業の従業員は、預金が一番の金融資産で、その他の金融資産とは2倍以上もの開きがあります。このグラフからも、近年問題となっている日本人の「金融リテラシーの低さ」が浮き彫りになっており、お金の問題が深刻であることがわかります。そのような中、「健康経営」を実施・認知している企業の従業員は、非認知企業の従業員より多くのことに関心をもっていることがわかります。

中小企業従業員の金融資産

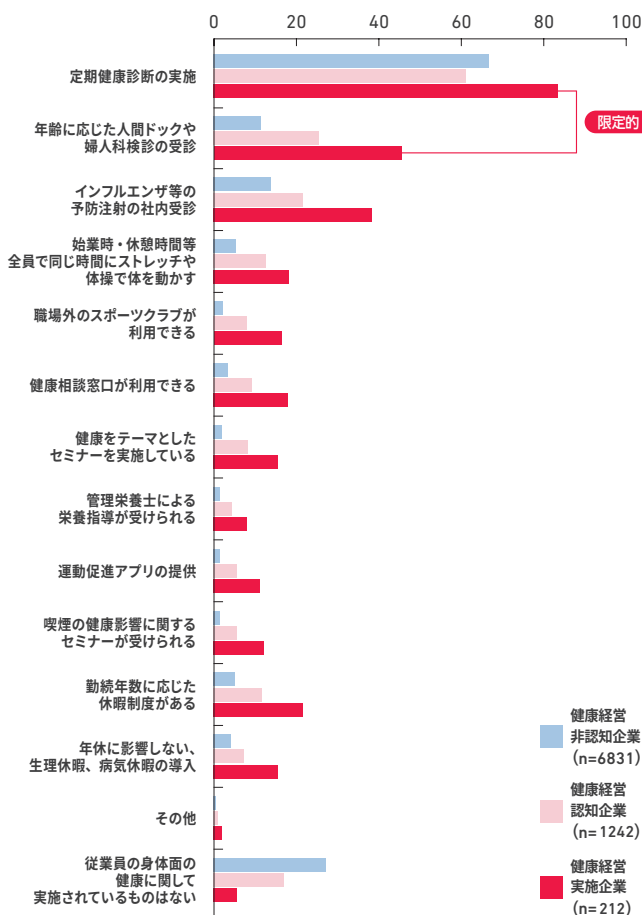


中小企業における従業員の健康について

従業員視点でも「健康経営」実施企業とそうでない企業では取り組み内容に差

従業員から見た「健康経営」の取り組みの内容は、「定期健康診断の実施」や「年齢に応じた人間ドックや婦人科検診の実施」等に限定されているようです。

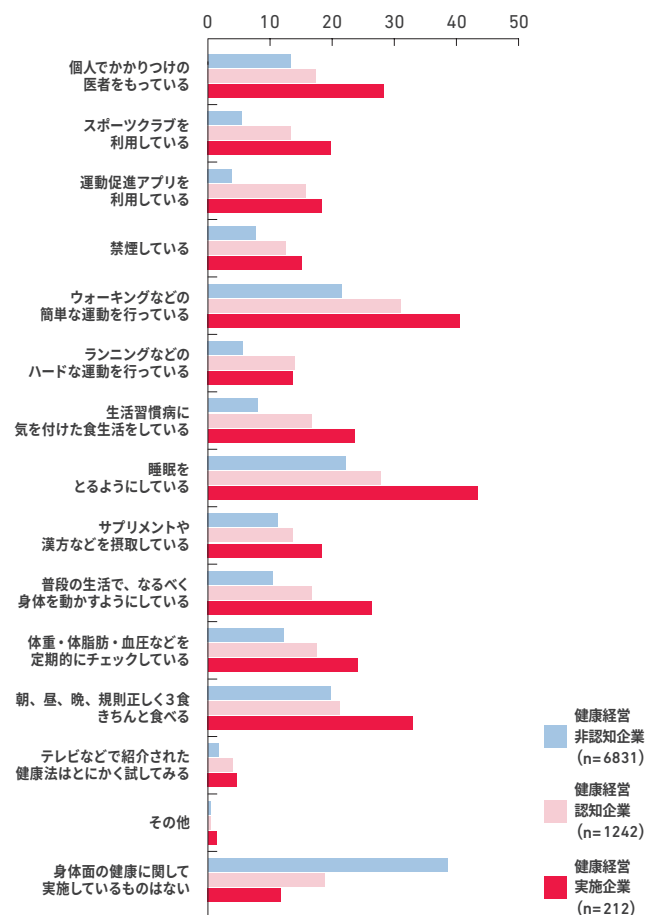
身体面の健康に関して会社が実施していること



「健康経営」を実施している企業の従業員は、身体面の健康に関する意識が高い

「健康経営」を実施している企業の従業員は、身体面の健康に関して個人でも取り組んでいることが多くあり、健康に対して意識が高いことがうかがえる結果です。

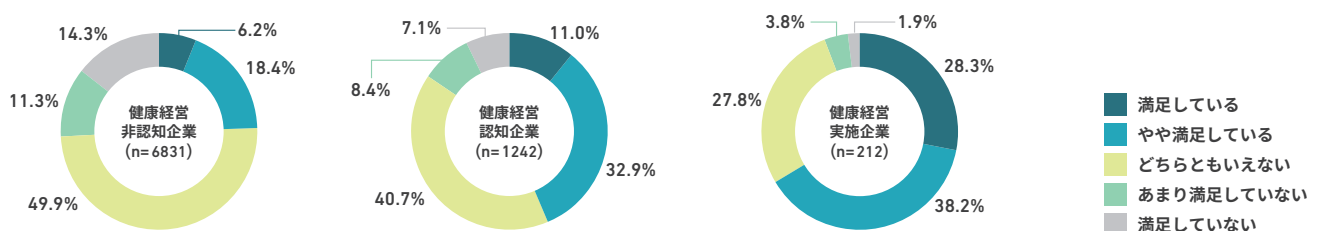
身体面の健康に関して自身で実施していること



「健康経営」を実施している企業の従業員は、会社の身体面での健康に関する取り組みに対して満足度が高い

「健康経営」を実施している企業の従業員は、会社の身体面での健康に対する取り組みに「満足している」「やや満足している」人が66.5%と7割に近い。

会社の身体面での健康に対する取り組みの満足度

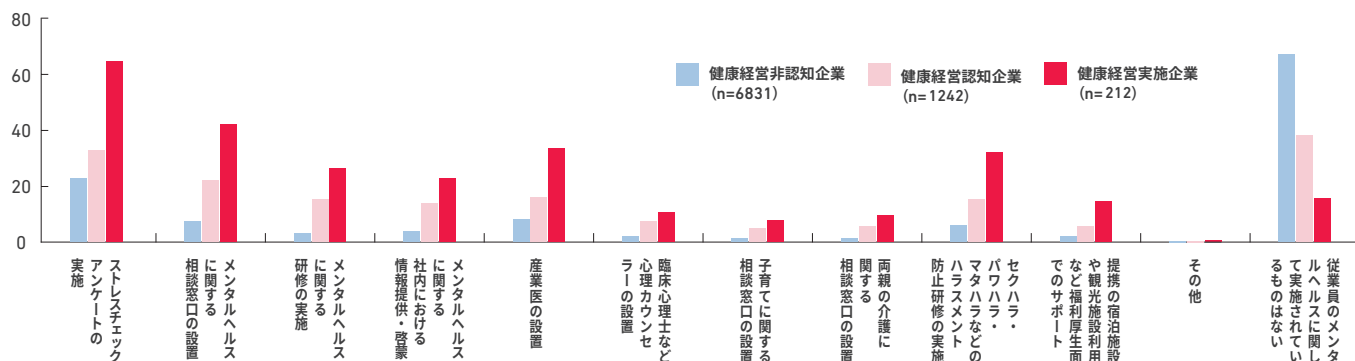


中小企業における従業員のメンタルヘルスについて

「健康経営」を実施している企業はメンタルヘルスの相談窓口設置や研修を行っているところが多い

「健康経営」を実施している企業では、「ストレスチェックの実施」や「メンタルヘルスに関する相談窓口の設置」をはじめとした、メンタルヘルスケアの取り組みが、認知企業・非認知企業よりも実施されていることがわかります。

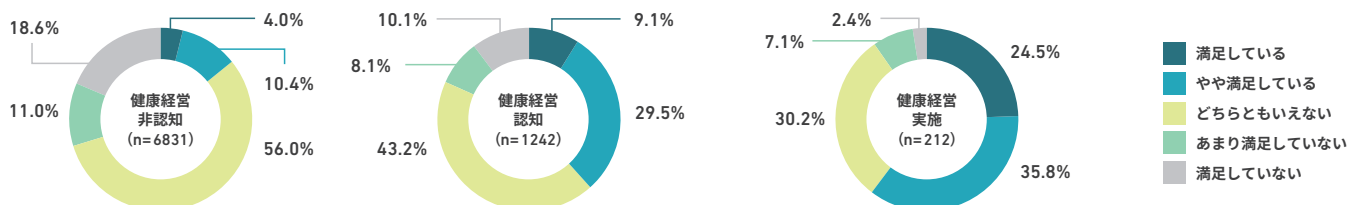
従業員のメンタルヘルスに関して会社が実施していること



「健康経営」を実施している企業の従業員は、会社のメンタルヘルスに関する取り組みに対して満足度が高い

「健康経営」を実施している企業の従業員は、会社のメンタルヘルスに対する取り組みに「満足している」「やや満足している」人が60%を超えています。

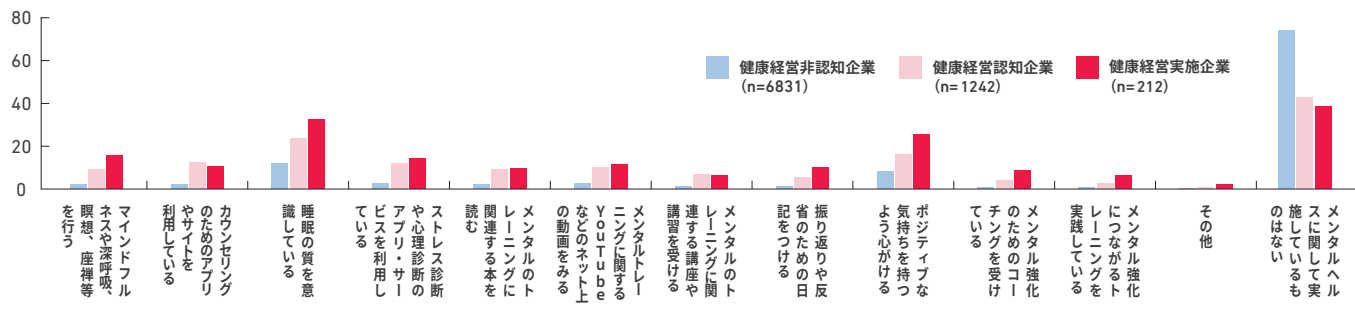
会社のメンタルヘルスに対する取り組みの満足度



「健康経営」を実施している企業の従業員は、認知企業・非認知企業の従業員よりメンタルヘルスに関する意識が高い

「健康経営」を実施している企業の従業員は、その他の企業の従業員より、メンタルヘルスに関して自ら心掛けたり、取り組みを行っている率が高いです。一方で、身体の健康に比べると、まだ何が必要かを理解しきれていないことが伺えます。

メンタルヘルスに関して自身で実施していること

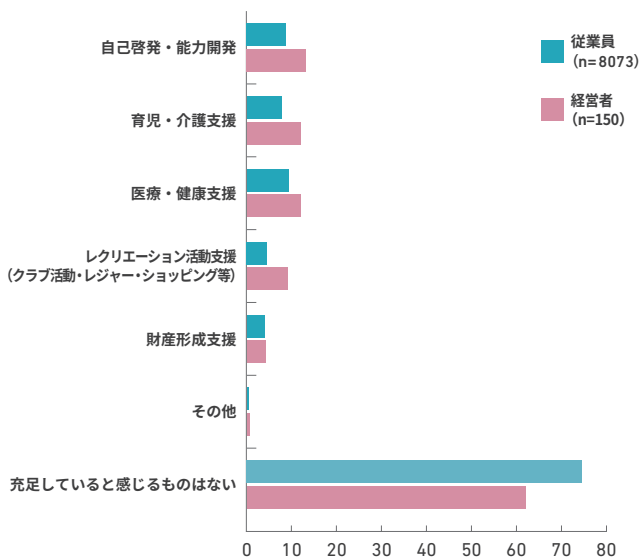


中小企業の従業員満足度・福利厚生について

経営者・従業員ともに 福利厚生が「充足している」と感じていない

多くの人が人生において「お金の心配をしないで生活できること」を重視しているなか、会社の制度として財産形成支援が充足していると感じている経営者・従業員は少ないようです。

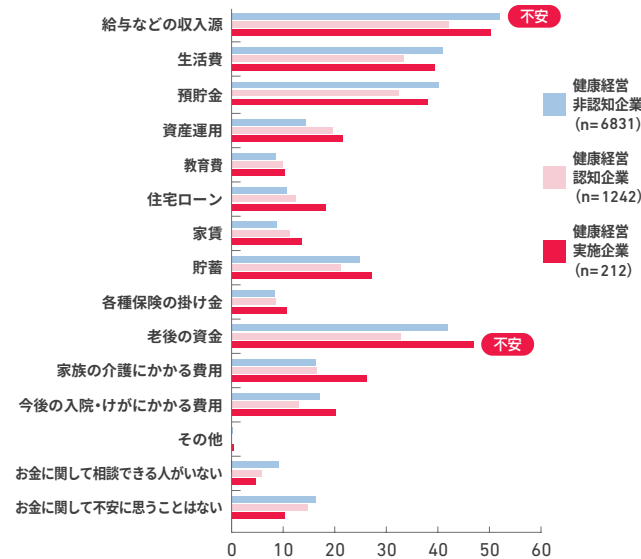
福利厚生制度の中で、充足していると感じるもの



「健康経営」実施企業の従業員は、 今よりも将来のお金に関する不安が大きい

「健康経営」非認知企業が今のお金に不安を感じている一方、「健康経営」を実施している企業の従業員は将来のお金に不安を感じているようです。

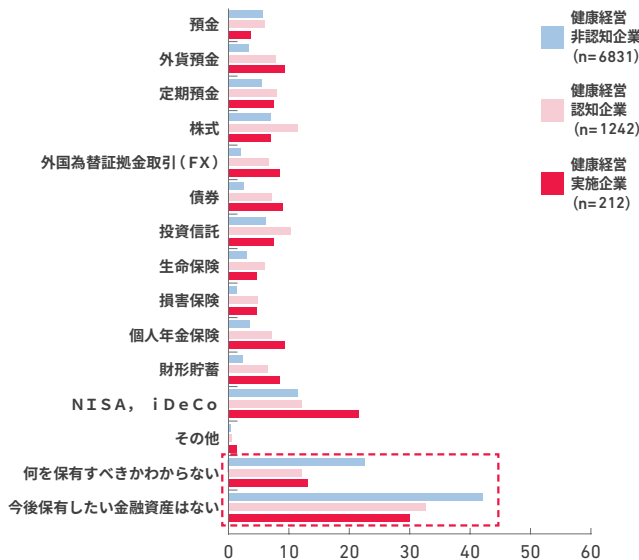
お金に関しての不安感



今後保有したい金融資産がないと 答えた人の率が高

従業員が保有したい金融資産について、NISA・iDeCo等に興味を持っている人が若干いるものの、「何を保有すべきかわからない」「今後保有したい金融資産はない」と答えた人が圧倒的に多い。

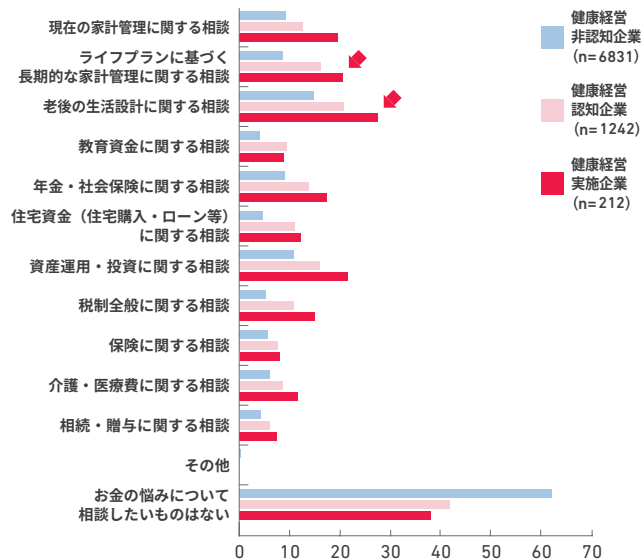
今後保有したい金融資産



お金の悩みについて相談の必要が ないと答えたのは非認知層が多い

「健康経営」を実施している企業の従業員には、「ライフプランに基づく長期的な家計管理」や、「老後の生活設計」など将来的なことについて相談したいと考えているようです。

お金の悩みや心配について相談したいこと



健康経営アクサ式

「健康経営アクサ式」は、身体と心の健康だけでなく、
お金の健康も含めた3つの調和を重視しています。

また、健康経営支援プログラムのPDCAサイクル*を通じて、「投資」「効果」を見える化。

これらは、多くの経営層からも興味を持っていただいております。

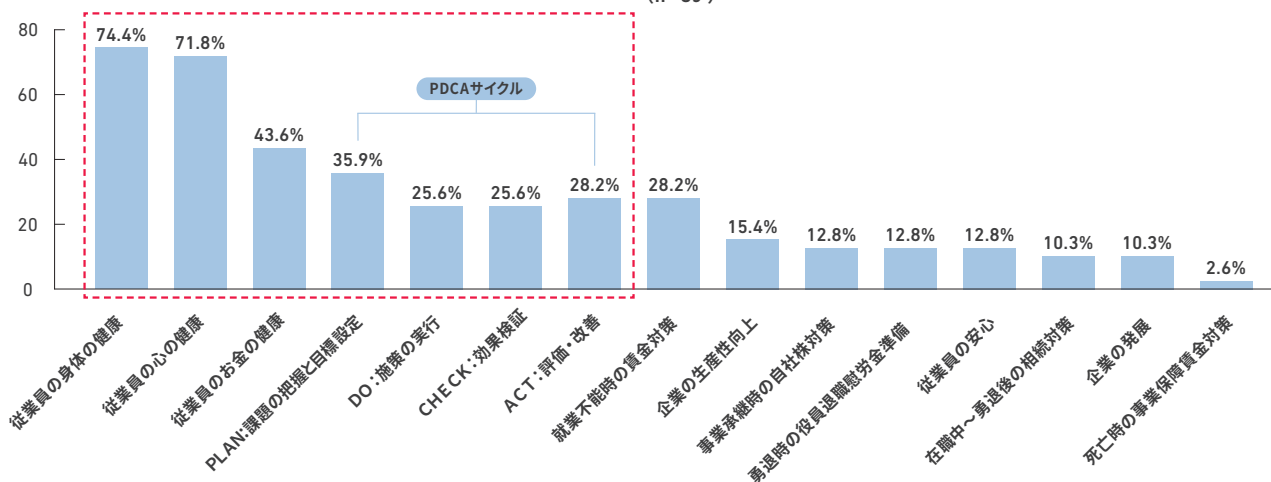
「健康経営アクサ式」を導入した企業の83%が効果を実感しています**。

*PLAN(課題の把握と目標設定)、DO(施策の実行)、Check(効果検証)、Act(評価・改善)

**Voice Report掲載企業990社のうちアクサ式導入企業756社が回答(2022年9月時点)

興味を持った「健康経営アクサ式」の魅力

(n=39)



〈アンケートについて〉

B to C 調査

■調査概要

内容	国民の意識調査
規模	全国15,202人
対象	働く人(年齢20～65歳) 都道府県×性別×年代／令和2年国勢調査 就業状態等基本集計を 参照し職業年齢人口(別に割り付け)／ 正社員／大企業、中小企業を含める(割り付けなし)

B to B 調査

■調査概要

内容	健康経営や従業員の ウェルビーイングに関する意識調査
規模	200人 (中小企業150人、大企業50人で割り付け)
対象者	中小企業の経営者および健康経営や従業員の ウェルビーイングに 関心のある部門(総務・人事) 責任者

詳しい情報は
こちらからアクセスして
ご確認ください

[https://www.axa.co.jp/
company/hpm/](https://www.axa.co.jp/company/hpm/)



アクサ生命について

アクサ生命はアクサのメンバーカンパニーとして1994年に設立されました。アクサが世界で培ってきた知識と経験を活かし、289万人のお客さまから526万件のご契約をお引き受けしています。1934年の日本団体生命創業以来築いてきた全国511の商工会議所、民間企業、官公庁とのパートナーシップを通じて、死亡保障や医療・がん保障、年金、資産形成などの幅広い商品、企業福利の増進やライフマネジメント®(人生を経営する)®に関するアドバイスをお届けしています。2022年度には、2,635億円の保険金や年金、給付金等をお支払いしています。

※ライフマネジメント®はアクサ生命保険株式会社の登録商標です。

アクサグループについて

アクサは世界51の国と地域で145,000人の従業員を擁し、9,300万人のお客さまにサービスを提供する、保険および資産運用分野の世界的なリーディングカンパニーです。国際会計基準に基づく2022年の売上は1,023億ユーロ、アンダーライティング・アーニングスは73億ユーロ、2022年12月31日時点における運用資産総額は9,324億ユーロにのぼります。アクサはユーロネクスト・パリのコンパートメントAに上場しており、アクサの米国預託株式はOTC QXプラットフォームで取引され、ダウ・ジョーンズ・サステナビリティ・インデックス(DJSI)やFTSE4GOODなどの国際的な主要SRインデックスの構成銘柄として採用されています。また、国連環境計画・金融イニシアチブ(UNEP FI)による「持続可能な保険原則」および「責任投資原則」に署名しています。

お問合せ先・担当者



アクサ生命保険株式会社

〒108-8020
東京都港区白金1-17-3 NBF プラチナタワー
TEL 03-6737-7777 (代表)
www.axa.co.jp/